

世界から見た日本の歯科事情

文化や工業製品と同じく、日本の医療・歯科医療は国際的にも世界有数の優れた技術を持っていると高く評価されています。世界保健機関(WHO)と経済協力開発機構(OECD)の報告書では、OECD加盟国(21カ国)の中で18位という低い医療費でありながら、WHOでは健康達成度、健康寿命が第1位であり、日本の医療は「総合世界一」と呼ばれています。また、日本の健診制度も高く評価されています。では、歯科事情において世界各国と比較するとどのような特色がみられるのでしょうか。

《日本人はよく歯医者に行く?》

日本人の年間歯科受診回数は平均約3回と、OECD加盟国(21カ国)では第2位と上位です。しかし、比例してむし歯を経験した人(う蝕経験率)の割合は世界の水準より高く、治療のために受診している人の割合が多いといえます。国民10万人当たりの歯科医師数は約70人と世界でもトップクラスです。同じアジア地域の平均は約30人であり、歯科治療を受診する日本の環境は恵まれているといえます。

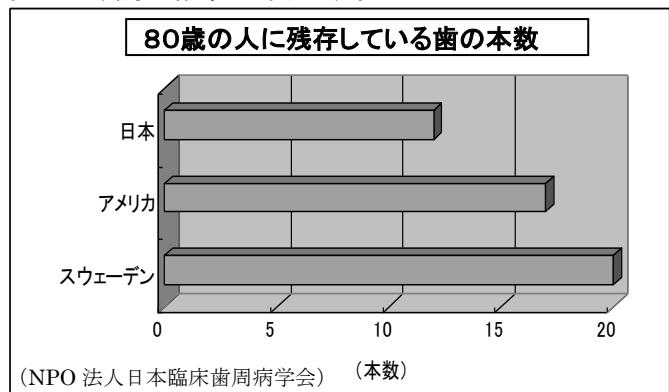
《日本の歯医者さんはお財布に優しい?》

日本の公的保険による診療単価は4カ国(日本、アメリカ、スウェーデン、ドイツ)の国際比較ではすべての治療において最も低く、安価で良質な治療を受けられています。特に国民皆保険がないアメリカでは民間の医療保険に加入する人が多く、自費診療も盛んに行なわれているため治療費は高額になりがちです。



《日本人は歯を大切にできている?》

現在、日本の80歳の人に残存している歯の本数は平均12本。それに対しスウェーデンでは平均20本、アメリカでは平均17本であるという調査結果があります。



実は、欧米諸国と日本では歯科定期健診の受診率に大きな差があります。予防歯科が進んでいるスウェーデンでは全国民の80%、他の欧米諸国でも70%ほどの受診率を保っています。これに対し日本の受診率は10%未満です。日本では「歯を守るために歯科を受診する」という意識がまだまだ遅れています。生涯健康な歯を守るために、国民一人ひとりが意識を高めていくことが大切だと言えます。

「世界から学ぼう!」の巻

「予防歯科」先進国として知られている北欧の国スウェーデン。そんなスウェーデンでも、かつては多くの人がむし歯や歯周病で歯を失っていました。その状況を重く見たスウェーデン政府は、1970年代「予防歯科」の考えを国家的な歯科医療の方針として採用し、歯科医院で「予防歯科」を受診することを義務化しました。今では国民全員が定期的にブラークontrolと歯科指導、治療を受けることができるようになっています。20歳未満の国民は、定期健診も歯科医院での治療も無料です。子どもの時から歯の健康づくりが生活習慣として定着しています。「『予防歯科』によって、年をとっても歯は残せること」を、スウェーデンの取り組みとその成果が証明しているといえますね。



お口の雑学クイズ

- 日本では歯を黒く塗る「お歯黒」という習慣がありました。はじめたのはいつ?
 - A. 弥生時代 B. 江戸時代 C. 明治時代
- 戦国時代の安土・桃山時代、日本最古の入れ歯が作られました。その材料となったものはなに?
 - A. 金属 B. 木材 C. 陶器
- 江戸時代に広く使用されていた歯磨き粉の主成分はなに?
 - A. 粘土 B. 砂 C. 穀物

(インターネット他、引用)

※ 答えは4面